

魚介の中毒説が有力

水俣市の奇病 中央で合同研究会

水俣市の奇病の原因はまたハッキリして疑いがつかぬ、わが国医学界の注目を集めているが、二十五、六の両日、東京で地元の大

て珍らしく大々公開行がかけられる。

教授、伊藤水俣保健所長、守住県公衆衛生課長、熊本水俣市長のほか厚生省の関係者が出席、まず患者の病状状態を収録した十六、映

されのまで魚介類を食べないこと、もし症状が現われたら早急に診断を受けることの二点に注意し

医学部、水俣保健所はじめ国立公衆衛生院、同予防衛生試験所、厚生省の権威を集めた初の合同研究会がひらかれた。

第一日は午前十時から港区白金台町の国立公衆衛生院で研究会が開かれ、厚生省五十嵐防疫課長はじめ公衆衛生院松田教授、佐藤

衛生部の研究資料が発表され、討議された。

厚生省としてはこの奇病の調査研究費を約二千万円と予定、半額程度を国庫補助を確保しようとする厚生省に折衝を始めた。

直接集出したのは浜松のアサリ貝中毒、新潟のイカ中毒事件に続く

国立予防衛生院が

この日は奇病の原因が従来言われている魚介類の中毒であるものでは

ないかと二区中毒説が有力であると

国立予防衛生院が

国立予防衛生院

この日は奇病の原因が従来言われている魚介類の中毒であるものでは

ないかと二区中毒説が有力であると

国立予防衛生院が

国立予防衛生院

この日は奇病の原因が従来言われている魚介類の中毒であるものでは

ないかと二区中毒説が有力であると

国立予防衛生院が

国立予防衛生院

この日は奇病の原因が従来言われている魚介類の中毒であるものでは

ないかと二区中毒説が有力であると